

# 令和元年度 栃木市教育研究所研究員研修会 研究記録カード

1 部会名	教材開発		部 会
2 研究員 所員 ◆: 代表者	◆板橋 由佳梨 ・野口 貴史 ・越沼 有子	・田中 康裕 ・町田 知秋	所員 ・古橋 奈美 ・宮掘 純也



## 3 研究テーマ

子ども達の思考を見取ることでできる教材作り

## 4 研究の取組

### (1) 研究内容

概念をしみこませる教材研究を行う。子どもたちが学習したことを言葉に表すことができるようになることを目指す。そのために、子ども達が思考を働かせ、学習内容をしっかり落としこむことのできる教材の工夫を行う。

また、子ども達が落とし込んだ知識を生かして考えているかどうかを確かめるために、思考の流れを読み取る教材作りを行う。既存のテストを使わず、子ども達の思考判断の評価を行う方法を模索する。

### (2) 研究計画

月 日	研修内容	月 日	研修内容
5月13日	研究テーマ・内容の協議、計画作成	12月10日	研究授業・協議
6月25日	研究テーマ・内容の協議、計画作成		(東陽中)
	学力テスト分析	2月6日	協議・まとめ
8月5日	研究テーマ・内容の協議、計画作成		
	次年度の教科書分析		
10月17日	研究授業・協議	2月21日	1年次経過報告提出
	(大平西小)		

## 5 研究の成果と課題

学力テストや次年度の教科書の分析により、子どもたちに求められている力は思考力ではないかと考えテーマ設定を行った。思考を見取るためには、思考をする場面を設定しなければならないと考え、子どもたちが思考を働かせる、教材研究を中心に研究を進めた。中学校数学で、発展課題を子どもらに与え、それを協働的に解決する学習を設定したところ、子どもたちはよく考え、友達の考えをヒントに課題を解決しようとしていた。このとき、子どもたちが思考を働かせている様子は見られたが、その思考をノートからのみ見取ることは難しく、メモ用紙を配り、考えている途中の様子を書かせ、それを残すようにするなど、思考を見取るためにはまだまだ工夫が必要であることが分かった。また、個人研究でも、各々が子どもが思考をする場面設定を行い、思考を深める工夫をした授業の実践をした。

## 6 さらに研究していきたいこと・次年度の構想

子どもたちが知識を生かして考えているかどうかを見取る教材研究を進める。  
研究が算数・数学に偏っていたため、他教科も取り扱うとよい。  
深い学びにつながるために、多様な見方を引き出す発問や、あえて一度間違えさせて気付かせるミスリードなど、教師の工夫について、成功例はもちろんだが失敗例についても発信していけるとよい。